

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300550		
法人名	社会福祉法人 那賀町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム 平野のどかの里		
所在地	徳島県那賀郡那賀町平野字妙見前1番地1		
自己評価作成日	平成23年9月27日	評価結果市町村受理日	平成22年2月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平野コミュニティ推進協議会の会合に呼んでいただいている。事業所の行事計画のなかに、校庭の草抜きや運動会、芸能祭り、のどかの里祭り等を盛り込んでいる。地域住民に支えられ、利用者が様々な地域行事に参加できるよう細やかな支援を行っている。事業所は、地域から様々な支えを得ており、利用者の生き生きとした暮らしに繋がっている。地域の方より旬の野菜をいただくこともあり、利用者の食べ慣れた食材を活用して食事を楽しんでもらっている。利用者一人ひとりが活躍することができるような機会を確保している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、のどかな山間の集落に位置している。木造2階建の旧小学校舎を改修した建物であるため、開設当初から地域住民と繰り返し話しあいを行っており、利用者や家族の意向、住民の意見、職員の思い等を運営面に反映している。管理者は、地区のコミュニティ推進協議会等の会合に積極的に参加し、草抜きや運動会、芸能祭りなど地域の催しを把握して事業所の年間行事に盛り込むなど、地域との関係性を強化する取り組みを行っている。地域の人たちからは季節の野菜や果物を届けてもらっており、地域のなかの一事業所として関係を構築している。職員は、利用者には郷土料理を教えることも多く、ともに調理したり、楽しく食卓を囲んだりして、和やかで家庭的な雰囲気なか食事の支援を行っている。職員の対応はゆったりと優しく、利用者の表情も穏やかで明るい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員採用時に理念を伝達し、理解してもらえるよう努めている。ミーティングや申し送り時に、理念に触れて振り返り、日ごろのケアに繋げている。	事業所独自の理念を作成している。全職員で地域密着型サービスの意義を確認しあって、利用者の安全な地域生活の継続や、地域と事業所の関係性を重視した取り組みを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のコミュニティ推進協議会により、地域広報便りや総会を通じて、事業所の年間行事等を周知してもらっている。利用者とともに地域の行事へ積極的に参加している。	秋祭りや運動会、芸能大会等、地域の行事に積極的に参加している。また、コミュニティ推進協議会や広報便りを通して事業所の取り組みを発信したり、のどか祭りへ招待するなど、日ごろから地域住民と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	那賀町内の方で、認知症の初期の方の家族から相談を受けアドバイスをを行うなどして取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で課題を提案し改善に結びつけている。職員の確保や百寿の祝いに関する検討会の内容等を議題として取りあげて意見をいただいている。現在、家族の参加が少なく、意見もあまりない。	事業所の取り組み状況や課題等を報告している。外部評価の結果について意見交換を行うなどしてサービスの質の向上を図っている。話しあった結果を運営面に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者より日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者より、事業所の空き情報や入居希望等の情報提供をしてもらっている。運営推進会議には必ず参加してもらっている。事業所の現状を把握してもらっていることもあつた確かなアドバイスを得ている。また、気安く相談できる関係を構築している。	町担当職員とは、必要に応じて連絡を取りあっている。事業所の実情を伝えたり、サービスの質を高めるための話し合いを行ったりして、日ごろから連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	地域包括支援センターより、那賀町高齢者虐待対応手引きを配布してもらっている。また、実務者レベルでの事例検討会を行っている。	権利擁護や身体拘束に関する勉強会を開催し、職員間の共通認識を図っている。玄関の施錠について家族や関係者間で話しあった結果、利用者の安全面に考慮し、外側からのみ自由に開けられるよう施錠している。	玄関の施錠については、利用者や家族、関係者間で話しあった結果である。今後もその内容と身体拘束の弊害について職員間で確認したり、利用者の状況変化に応じて繰り返し話し合いの機会を設けたりするなど、安全を確保したうえでさらに自由な暮らしの支援に取り組むよう期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	パンフレットにより情報提供している。毎日、入浴できる体制を構築しており、介助者も毎回変わっている。入浴時、身体や表情の観察を行って、疾病等の早期発見に努めている。地域包括支援センターより那賀町高齢者虐待対応手引きを配布してもらっている。また、実務者レベルでの事例検討会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターより、那賀町高齢者虐待対応手引きを配布してもらっている。成年後見制度や日常生活自立支援事業について学ぶ機会があり、資料を回覧するなどして自己研鑽もしている。制度の活用が必要な時に備えてネットワークを構築している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明している、今後、起こりうる重度化やターミナルについても説明している。納得いただいたうえで契約を締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に情報提供を行っている。運営推進会議の後、家族に残っていただいて意見を聞く機会を設けている。利用者にも、運営推進会議の際に発言してもらえるよう機会を設けている。出された意見や要望等は、職員ミーティングの際に話しあい、統一したケアに繋げている。	利用者や家族が、意見・要望等を言いやすい雰囲気づくりに配慮している。出された意見等は、ミーティングや運営推進会議等で話しあい、サービスの質の向上に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日ごろから、コミュニケーションを図るよう心がけている。職員に問いかけたり、聞き出したるようにしている。意見や要望等を解決できない場合には、運営者に相談し解決に向けて取り組んでいる。	管理者は、職員とのコミュニケーションを大切に捉え、さりげない問いかけを行うなどして意見や意向の把握に努めている。運営に関する提案等は、全職員で話しあつて代表者に相談し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の福利厚生 of 充実に向けてソウエルクラブに加入している。昇給制度の他退職制度も導入している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足等により研修の機会が少ないため、新聞やテレビの情報により自己研鑽に努めている。職員一人ひとりのやる気により個人差はある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は人材不足できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったときには、必ず面会するようにしている。利用者の心身の状態や思いに向きあい、職員が本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯についてゆっくり聞くようにしている。話を聞くことで落ち着いてもらって、詳細な相談に繋げるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、なるべく柔軟な対応を行うよう努め、空室がある場合はショートステイで対応している。場合によっては、他事業所のサービスに繋げるなどの対応も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安、喜び等を把握するよう努め、日ごろの暮らしのなかで分かちあつてともに支えあえる関係づくりの構築を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人や家族の思いに寄りそって、日ごろの暮らしのできごとや気づきなどの情報を共有するよう努めている。職員は、本人をともに支えるために家族と同じような思いで支援していることを家族に伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域行事が多いため、地域に暮らす馴染みの知人や友人と会う機会が頻繁にある。また、面会に来てくれる方も多く、継続的に交流できるよう働きかけている。	事業所に隣接する小学校の体育館や運動場を借りて地域行事を開催している。行事の際には、大勢の友人や知人、地域住民等の来訪がある。利用者は、馴染みの場所で交友関係を継続し構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の関係性等の情報を共有できるよう努めている。また、心身状態や気分、感情等により変化することもあるため、注意深く見守るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移行した後も、家族からの差し入れなどがある、また、利用者の話し相手をして下さっている。のどか祭りにも参加してくれており、サービスが終了した後でも関係を維持できるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろの関わりのなかで声かけを行い、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情等から真意を推し測ったり、さりげなく確認したりしている。意思疎通が困難な利用者には、家族や関係者から情報を得るようにしている。	職員は、利用者とのコミュニケーションを大切に捉え、会話を通して意向の把握に努めている。家族や関係者からも情報を得ている。関係者全員で、本人にとってより良い暮らしについて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から聞いたり、家族や知人等が面会に来た際に少しずつ把握したりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活面や心理面の視点、できないことよりできることに着目し、利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日ごろの関わりのなかで、本人や家族の思いや意見を聞いて介護計画に反映している。アセスメントも含め、全職員で意見交換やカンファレンスを行っている。	日ごろの関わりや家族の来訪時等に、利用者の意向や家族の思いの把握に努めている。カンファレンス時に話しあい、本人の望む暮らしの実現に向け介護計画書を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりのファイルに、食事・水分摂取量や排泄等の身体的情報、日ごろの暮らしの様子、本人の言葉、エピソード等を記録し、全職員が確認できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じ、体調不調時の通院や夜間等に柔軟な対応を行っている。家族の協力を得て、利用者が満足し安心していただけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らし続けることができるよう支援している。地域のボランティアや民生委員、婦人会、消防署、警察署職員等の来訪があり、様々な行事に参加してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。また、基本的な受診は事業所の協力医療機関で職員が同行の支援を行っている。町外の専門医療機関の受診時には家族に同行してもらっている。利用契約時にその旨を説明し同意を得ている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。協力医療機関の受診は事業所の職員が支援し、町外の専門医療機関への通院は家族の協力を得て行っている。また、必要に応じて家族と連絡を取りあい、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期受診の医療機関や入院時の協力医療機関の看護師から、日ごろの健康管理や医療面で相談や助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診の医療機関や入院時の協力医療機関より、日ごろの健康管理について助言等をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的には、事業所の運営方針として重度化に対応しない。家族より強い希望があった場合には、医療機関のバックアップ等がいただける場合のみ終末期の目前まで対応している。現在、対象となる利用者が数名いる。	終末期のケアのあり方や事業所の対応について、医師や職員等の関係者間で検討する方針としており職員間で共有化を図っている。また、契約時に、本人や家族と話しあって意向を確認し合意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回、消防署の救急救命士に依頼し、救急訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署職員の指導や地域の自主防災組織の協力を得て、総合訓練を実施している。	事業所は、つねに地域の自主防災組織や消防署と連携を図っており、年2回、合同で避難・消火訓練を実施している。事業所の1階が地域指定の避難場所となっており、災害時に利用者を落ち着いて誘導できるよう全職員で取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをしたりして、本人を傷つけてしまわないよう配慮している。目立たずさりげない言葉かけや対応に留意している。職員は、利用者のプライバシーについても守秘義務の徹底を図っている。	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、優しい言葉かけやさりげない対応を心がけている。外部と連携や情報交換等を行う際には、個人情報の取扱いに細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	献立は、利用者に希望するメニューを聞いている。利用者が調理する機会も多く設けている。日ごろの生活において、本人が自己決定できるような場面づくりを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買いものや散歩等、利用者の状態や思いに配慮したうえで、一人ひとりペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に、本人の意思で朝の着替えの衣類等を決めていただいている。職員に聞かれたときには、ともに考えて最終的に自己決定できるような言葉かけに努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの役割や出番を組み立て、楽しく料理を作ったり、食事をとったりできる雰囲気づくりを大切にしている。職員の声かけにより、利用者に調理や食事づくりの一連の流れの役割を担ってもらっている。	利用者は、職員とともに調理方法を考えたり、一人ひとりの力に応じて準備や後片づけ等の役割を担っている。また、日ごろの地域との関わりのなかで住民から季節の野菜等をもらうことも多い。利用者にとって食事が楽しみなものとなるよう職員は配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事・水分摂取量等の状況をチェックし、個別ファイルに記入して職員間で共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを徹底している。夜間には義歯洗浄して除菌を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。尿量に応じてパットを使用している。日中は、誘導することで失禁のないよう心がけている	利用者一人ひとりの習慣を把握し、トイレでの排泄を基本とした自立支援に努めている。誘導の際の声かけや対応には、本人の自尊心に配慮しさりげないケアを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を多く取り入れた献立にしている。散歩や家事活動等、身体を動かす機会を多く設けている。また、排泄の困難な方には、医師の指示のもと利用者一人ひとりに応じた下剤を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴の順番を代えるなどして公平に対応している。全職員が入浴に関わって体調等を確認し、早期の気づき(体の浮腫み、打撲、皮膚疾患、痛み)に努めている。また、冬期には、柚子湯や入浴剤を使用し、入浴を楽しんでいただいている。	職員は、季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯等を行ったり、順番を工夫したりして、利用者の意向に応じた入浴を支援している。また、入浴時に一人ひとりの皮膚状態をさりげなく把握するなど、疾患の早期発見にも取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	規則正しい生活を送ってもらうことで、一日の生活リズムをつくらせている。その日の出来事により、個別に休息を取っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーを箋することで、職員が内容を把握できるようにしている。薬の変更があれば個別ファイルに詳細に記入し、口頭でも申し送りを行って職員間で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが得意分野で力を発揮できるよう、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけている。遠足や行事、ドライブ、お参り、花見等に出かけている。	天候の良い日には散歩をしたり、木曜市への買い物、喫茶店等へ出かけている。また、季節等に応じて、ドライブや花見、地域行事に出かけるなど、利用者の習慣や楽しみごとを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			平野のどかの里 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、事業所では金銭を預かっていない。年1回の遠足の際、家族の協力のもと、お金を使う喜びの機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、日ごろから電話や手紙を出す支援を行っている。面会に来てくださった方には年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春は桜、冬には雪を見て食事をしている。食事づくりでは、四季折々の材料を用いて五感や季節感を取り入れるなどの工夫をしている。	食堂に利用者の作品や季節の花等を飾ったり、昔懐かしい家具や食器等を活用したりしている。空調や採光等にも配慮しており、利用者にとって過ごしやすく居心地のよい空間となっている。また、廊下にはソファを設置しており、仲の良い利用者同士がくつろぐことができるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や座敷の部屋、廊下の長いす、学童部屋のソファで一人で過ごしたり、利用者同士で会話を楽しんだりしてくつろげる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れたものを持ち込んでもらっている。日用品や編み針、大正琴等、自分のものを居室に持ち込んで練習されている。	居室には、利用者の馴染みの家具や物品等を持ち込んでもらっており、一人ひとりが自慢の作品を飾っている。また、各居室に趣味の用品を設置して本人の楽しみごとを支援するなど、居心地良く過ごせる工夫を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安、失敗等が生じた際には、職員間で話しあっている。本人の力が発揮でき不安なく過ごすことができるよう環境整備にも留意している。		